

EA760FD-1(金属探知器)取扱説明書

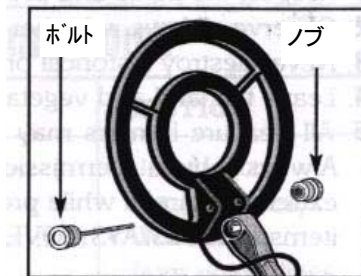
このたびは当商品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
製品を安全にご使用頂くためにも、取扱説明書をよくお読み頂きますようお願い申し上げます。

(最初に)

- 間違ったシグナルが発生した時は感度調整ノブは“Low(低)”にセットしてください。
- 室内では使用しないでください。室外使用のみです。
- 床にコインを置いてテストしないでください。
- 取扱説明書をよく読んでください。
- コイルは掃くようにして使用してください。
- アルカリ9V型電池のみ使用してください。

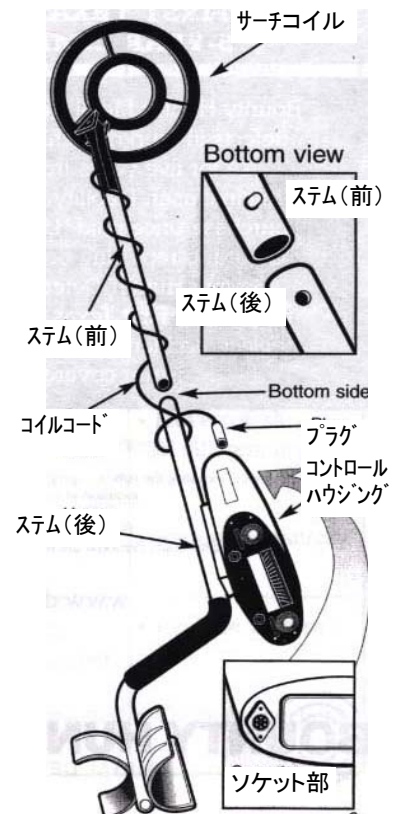
(組立)

- ① 付属のボルトとノブでサーチコイルをステム(前)の先端に取付けます。



- ② ステム(前)のボタンを押しながらステム(後)に差し込みます。
作業者の使用しやすい長さに調節してください。
- ③ ステムの回りにコイルのコードをゆったりと余裕を持って巻き付けてください。
サーチコイルのノブをしっかりと締付けます。
(コイルを調節する時はノブを緩めます。)
- ④ コントロールハウジングのソケットにコイルのプラグを差し込みます。ピンラインと穴を揃えてまっすぐに差し込んでください。

注意: 力を入れてプラグを差し込まないでください。
抜く時はプラグを持ってください。コードを持って引抜かないでください。



(電源)

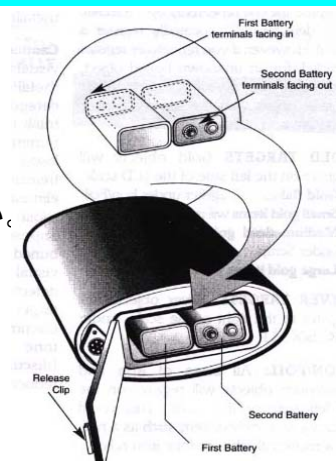
- ・常に9V型アルカリ乾電池を使用してください。
 - ・長期間使用しない時は本体から電池を抜き取ってください。
- 下記の状態の時は電池を交換してください。

- ① ユニットが作動しない。
- ② スピーカーのボリュームが低い。
- ③ 識別ノブでチューン調整ができない。

電池能力が低下している表示が出た時は電池を交換してください。
電池能力低下のサインはスイッチを入れた時に一時的に点滅します。

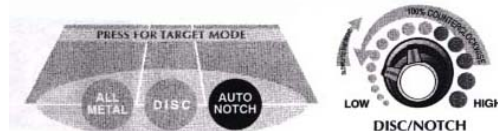
電池の入れ方

- ① 電池蓋の右側にあるクリップを押さえながら気を付けて電池蓋をハウジングから外します。
- ② 電池の極を間違わないようにして端子にはめ込みコンパートメント内に図のように戻します。
- ③ 電池蓋を戻します。



(クイックスタートデモ)

1. 準備するもの
釘、アルミニウムホイル、銅貨、白銅貨、銀貨等
2. 探知器の位置
 - a. 探知器を机の上に置きます。コイルは空中に浮くようにしてください。
(第三者に持ってもらう方法もあります。)
 - b. コイルは壁、床、金属物から離してください。
 - c. 作業者は時計や装飾品を腕、体から外してください。
 - d. 電磁波を発生する機器、ライトなどはスイッチを切ってください。
 - e. コイルを地面と平行にして向けてください。
3. パワーアップ
 - a. 探知器のスイッチを入れ感度ノブを3:00の方向に回します。
 - b. Disc/Notchノブを反時計方向に100%回します。
4. サーチコイル上で対象物を振る。
 - a. コイルと平行にコインなどを振ります。
 - b. トーンの違いを確認します。
5. 識別
 - a. Discボタンを押します。
 - b. Disc/Notchノブを時計方向に回し、12:00の位置にセットします。
 - c. コイルの下で物体を振ります(異なるトーンを確認します。)
 - d. Disc/Notchノブで探知から銅貨を除外していきます。
6. オートノッチモード
 - a. Auto-Notchボタンを押します。
 - b. Disc/Notchノブを反時計方向に100%回して低(low)にします。
 - c. コイルの下で物体を振ります(異なるトーンを確認します。)



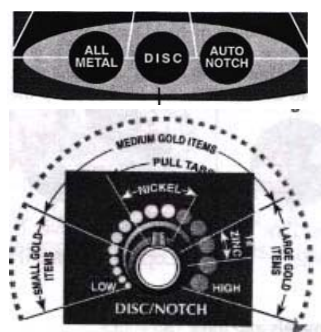
(基本操作)

- 探知器のスイッチを入れる
左にあるノブを回します。3トーンとLCDに矢印が瞬間に出て、自動的に“ALL-Metalモード”になります。

- オールメタルモード
 - ・All-Metalボタンを押します。
 - あらゆるタイプの金属の上をコイルが通過するとブザー音を発します。



- 識別モード
 - ・Disc(識別)ボタンを押します。
 - ・感度調整ノブ(左)をゆっくり時計方向に回します。
全ての鉄製金属等を探査から除外します。
 - Disc/Notchノブを時計方向に回すとアルミホイル、プルリング、キャップ、白銅貨なども除外していきます。

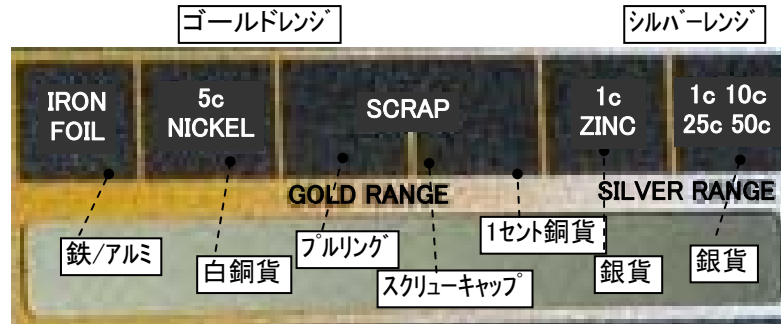


- オートノッチモード
 - ・AutoNotchボタンを押します。
 - ・ほとんどの鉄とプルリングが自動的に探知域から外されます。但しニッケルと小さな金リング等は探知されます。Disc/Notchノブを時計方向に回して調整してください。このノブでキャップや白銅貨などを除外していただけますが若干は探知します。



LCDによる発見物表示について

- ・液晶表示は発見した金属の種類をでき得る限りの範囲で識別するものです。発見物の上を繰り返しサーチコイルで探知して発見物の種類を読み出します。地中内の物質が特定したものであれば表示も変化はありません。もし、同じ箇所をくり返し探知しても表示が一定しない時は屑か錆びたものと考えられます。信号については繰り返し学習してください。個別の区分表示は高い精度があります。例えば白銅貨の上を繰り返しコイルを通す事で、探知器は白銅貨を記憶するようになります。しかし未知の対象によっては白銅貨と同じ信号を発するとも限りません。



注意: 発見物の表示はあくまで参考です。他の金属もこれらのカテゴリー内にあります。屑か宝物かは経験を積む事でしか判別しにくいものです。経験を積むほど作業者の能力は上がるものかと考えます。

○ ヘッドホーン(別売)の使用

ヘッドホーンを併用する事でわずかな音の変化も聞き取りやすくなり、電池の消費も抑えられます。ヘッドホーンのプラグを本体のプラグに差し込んでください。

交通量の多い所ではヘッドホーンを使用しないでください。

※ヘッドホーンプラグは1/4"の径のものをご利用ください。ミニプラグ(φ3.5mm)には、大型プラグアダプターがを併用してください。例)EA763BC-4等

(インジケータと感度調整)

○ バッテリー表示

電池の能力が低下するとスイッチを入れた時に点滅します。電池を交換してください。

LOW ● BAT

○ 感度調整

注意: 探知器は室内では非常にやかましく作動してしまいます。

室内で探知テストをしたい時はTV等のマイクロ波を発する装置やライトのスイッチを切ってください。

探知器のノブが100%時計方向に回してあるためうるさい時は感度を減らすためにノブを1:00か3:00の位置にまで戻してください。

もし、浅い所の発見物と思われるのに深い所にあると疑われる時は、まず感度を減じて物が浅い所で感じられるかを確認してください。



(音による確認)

Disc, Notch, Auto-Notchモードは3つのトーンを発して金属物質のカテゴリーを探ります。

- ・鉄類: DISモードで鉄類は低いトーンを発します。錆び付いた鉄は高いトーンを発します。非常に大きな鉄の塊(マンホールの蓋等)は高いトーンを発します。

- ・金(ゴールド): 金は低い音或は中間の音を出しますがサイズによります。小さい金はほとんど左側の分割域で表示されます。大きな金はZincの分割域で表示されます。

- ・プルリング: プルリングは探知者にとって最も厄介な金属屑です。ほとんどが中間のトーンで表されます。古いリングはAuto-Notchモードで除外する事ができます。或はNotchモードとDisc/Notchノブで除外できます。古いタブは半分に割れていることが多いので低いトーンで表されます。

プルリングと金のリングを判別するのは非常に難しい事です。金のリングはダブルブザーを発しプルリングはシングルブザーを発する事がありますので聞き分ける事も大切です。

- ・銅、銀、真鍮: 高いトーンを発します。

(フィールドテクニック)

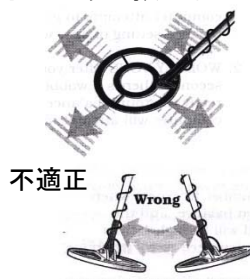
ピンポイントで目標を見つけるには訓練とX探査が重要です。

1. 埋まった物体が良い反応を示している時、コイルのカバー作業をサイド-to-サイドの動きで場所を狭めます。
2. ブザー音がする表面に目印を付けます。
3. その地点の真上でコイルをとめます。
4. コイルをまっすぐ前後に何回か動かします。
5. ブザー音がする表面に目印を付けます。
6. 必要ならブザー音がする地点を、違った角度からX字に探査します。



○ コイルの動かし方

コイルを掃く時は地表から12mmほどの所を水平に動かしてください。振子のように振らないでください。



コイルは図のように一步毎に半円を描いて進むのが理想的です。

(トラブルシュート)

症状	原因	対処
探知器のブザー音がうるさい。	・室内で探知器を使っている。 ・電源の側で使用している。 ・近接した場所で2台の探知器を使用している。 ・周囲の環境から電磁場の干渉がある。	・探知器は室外のみで使用。 ・電源から離れる。 ・少なくとも6mは離す。 ・うるさい音が無くなる所まで感度を下げる。
低いトーン、 或は繰り返すトーン。	・電池の放電。 ・電池タイプが間違っている。	・電池交換 ・9V型のアルカリ電池を使用する。
発見物IDのLCDが一定しない。 多数の音が出る。	・複数の物体が存在 ・非常に錆びた物体 ・感度が高くセットされている。	・違う角度でコイルを動かしてみる。 ・感度を減らす。
表示がでない。 音がしない。	・電池切れ ・電池の接続ミス ・コードがしっかりと接続されていない。 ・モーションモードでコイルが動いていない。	・電池交換 ・接続確認 ・サーチコイルをサイド-to-サイドに動かす。

(メンテナンス)

- ・当製品は乾燥した場所で使用し、水に浸けないでください。濡れた場合はすぐにきれいに拭き取って乾かしてください。水に含まれるミネラルが電気回路を腐食させます。
 - ・サーチコイルは防水加工を施しています。水や海水に浸ける事ができますが、海水からあげたらすぐにきれいな水で洗い、拭いて乾かしてください。
 - ・保管する時は常温で管理してください。高温下では電気回路の寿命を縮め、バッテリーを損傷させプラスチック部分を劣化溶解させます。
 - ・機器は大切に扱い落さないでください。落下による衝撃で電気回路が損傷を受け、不正確な表示を起こします。
 - ・適正で新しい電池を使用してください。電池漏れは電気機器部品を損傷させます。
 - ・本体を湿らせた布できれいに拭いてください。溶剤は使用しないでください。
- 本体を加工・改造しないでください。

株式会社 エスコ

本社／〒550-0012 大阪市西区立売堀3丁目8番14号
TEL(06)6532-6226 FAX(06)6541-0929